

第4回 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム
～ 笑顔につながるはじめての一步 ～

平成26年7月5日(土)

Forum

聞いて話してつながる

昔も今もこの先も大切なのは地域の(わ)

お茶しながら話しましょ

年をとっても住みたいまちって?

やりたいこととつながろう

子育てママ・パパ大歓迎!!

歴史を知ってすみだのことが好きになる

入場無料

笑顔につながるはじめての一步
すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

日時 平成26年7月5日(土) 12:30～17:00
開場12:00

会場 すみだリバーサイドホール
墨田区西薬橋1-23-20

主催 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会
墨田区 社会福祉法人墨田区社会福祉協議会

申し込み
問い合わせ


【参加申し込み】所属・氏名・参加希望分科会を裏面の参加申込書
あるいは電話にて6月27日(金)17:00までに下記申し込み先へ
※準備の都合上あらかじめお申し込みください。当日参加の方も大歓迎。

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会事務局

- 墨田区福祉保健部厚生課 ☎03-5608-1163 FAX03-5608-6403
- すみだボランティアセンター ☎03-3612-2940 FAX03-3612-2944



プログラム

12:00	12:00 開場 ボランティア団体紹介コーナーは開場時からオープン！ 皆さんとの出会いを楽しみにしています。.....→	12:00 ↓ 17:00
12:30	オープニング (ホール)	
12:40 ↓ 14:00	<p style="text-align: center;">フレートーク (ホール)</p> <p style="text-align: center;">すみだの地域社会を作った先人から何を学ぶのか</p> <p>● 鈴木 みな子 氏 (日本社会事業大学 社会事業研究所 共同研究員)</p> <p>墨田区は日本近代経済の発展を支えた地域です。この地に移り住んだ先人たちは、「自分たちの地域を良くしていくのは自分たちなのだ」という強い意地を持っていました。先人たちの素晴らしいパワーを学び、今後の地域活動に必要な力をもらいましょう。</p>	
14:30 ↓ 15:40	<p style="text-align: center;">パネルディスカッション (ホール)</p> <p style="text-align: center;">地域の《わ》をひろげよう</p> <p>【パネリスト】 ひきふね図書館パートナーズ…本が好きな様々な年代の方が集まり図書館で読書会やイベントを企画 民生委員 南藤 正樹氏…… 町会と協力し「太巻みまもりネットワーク」を結成。地域の見守り活動を行っている 藤中村制作所 中村 敬氏…工場を地域に開くイベントを開催。地域・人のつながりを意識している町工場の3代目 元小梅小・墨田中PTA会長 菊地 幸氏…PTAや経営者としての立場から地域の子どもや若者を支え続けている 明治学院大学ボランティアセンター 市川 孝子氏…地域の活性化と学生の成長を願い活動しているコーディネーター 【コーディネーター】 関東学院大学教授 山口 裕氏</p>	
16:00 ↓ 17:00	<p style="text-align: center;">分科会 (ホール・会議室等)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>1 子どもたちが豊かに育つまち</p> <p>～新しくなる子育て支援制度の中で～ 子ども・子育て支援新制度が来年4月から導入されます。現在公募委員を含む墨田区子ども・子育て会議が中心となり、新制度の詳細を検討しています。この分科会では新制度の概要を知り、特に放課後の小中学生の過ごしをどのように地域で守っていくのが、一緒に考えます。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>2 誰もが安心して暮らせるまち</p> <p>～高齢者を支える取り組みをきっかけに～ 核家族化や人間関係の希薄化は、住民の孤立や孤独、自らの居場所を見出すことができない等の問題を生んでいます。「高齢者」をキーワードとして、墨田が抱える課題やそれに対する取り組み、どうしたら誰もが安心して暮らせる地域を作ることができるのかを考えます。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>3 聞いて話してつながろう</p>  <p>～ワールドカフェ型広場～ 小さいテーブルを囲んでお茶を飲みながら、少人数で語り合います。私たちの地域で大切にしたい活動、今必要とされている新しい活動、ボランティアしたいけどどうしたらいい?といった疑問など、今の思いを出し合って、新しいアイデアを持ち帰りましょう!</p> </div> </div>	
16:00 ↓ 17:00	<p>16:00 墨田区立両国中学校吹奏楽部ミニコンサート (ホール)</p> <p>16:20 全体総括・エンディング (ホール)</p>	

ボランティア団体紹介コーナー (ホワイエ等)

「手話サークル」「すみだ」給手紙さくら亭すみだ市の絵本の会「花」あしたの命の預言者 仕事さかえのSUINネット「すみだ」点訳「ひかり会」すみだリハビリセンターの会「墨田区児童発達支援センター」NPO法人「あそびのこころ」墨田区「要約筆記サークル」ほか「外国人生活学習の会」墨田区「読書者協会」おはなしの会「つくりしんぼ」すみだ読書グループ「声」ふれあいベルすみだグループ「すみだ」墨田区「ひきふね図書館」パートナーズすみだ人権啓発センター「区民活動推進隊」墨田区民生委員児童委員協議会「会津若狭グループ」かりんとう墨田防犯ボランティア「墨田区社会福祉協議会」

参加申込書 ●以下の内容にご記入いただき、6/27 17:00までにFAXまたはEメールでお申し込みください。(電話も可)
●当日参加も受け付けますが、一時保育・手話通訳が必要な場合は必ず事前にお申し込みください。

名前 _____ 所属団体名等 _____

参加希望の分科会に **1 子どもたちが豊かに育つまち** **2 誰もが安心して暮らせるまち** **3 聞いて話してつながろう**
○を付けてください

一時保育・手話通訳を希望する場合はどちらかに○を付けてください **1 一時保育希望 (お子さんの年齢 才)**
※一時保育については1歳～就学前のお子さんが対象となります。 **2 手話通訳希望**

●墨田区福祉保健部厚生課 FAX: 03-5608-6403 Eメール: KOUSEI@city.sumida.lg.jp ☎03-5608-1163
●すみだボランティアセンター FAX: 03-3612-2944 Eメール: vc@sumida-shakyo.or.jp ☎03-3612-2940
※どちらに申し込んでいただいても構いません。

■フォーラム概要

1 趣旨

墨田区における地域福祉の推進とボランティア活動への参加促進を図るため、民生・児童委員、ボランティアグループ活動者、小地域福祉活動参加者、福祉施設・福祉事業者など地域福祉とボランティア活動の関係者や活動に関心を持つ者等が一堂に会し、地域福祉・ボランティア活動について一緒に学び、考え、交流し、広く活動への参加を呼びかける。

2 日時

平成26年7月5日（土）12時30分から17時まで

3 場所

すみだリバーサイドホール他

4 内容

(1) プレトーク 「すみだの地域社会を作った先人から何を学ぶか」

講師： 鈴木 みな子 氏 日本社会事業大学 社会事業研究所 共同研究員

(2) パネルディスカッション 「地域の《わ》をひろげよう」

ひきふね図書館パートナーズ

民生委員・児童委員 齋藤 正樹氏

中村仲製作所 中村 敬氏

元小梅小・墨田中PTA会長 菊地 修氏

明治学院大学ボランティアセンター 市川 享子氏

(3) ボランティア活動紹介・体験タイム

展示ブース：福祉の団体に加え、区民活動、リサイクル、教育支援などの団体が出展

(4) 分科会

① 子どもたちが豊かに育つまち ～新しくなる子育て支援制度の中で～

② 誰もが安心して暮らせるまち ～高齢者を支える取り組みをきっかけに～

③ 聞いて話してつながろう ～ワールドカフェ型広場～

(5) 両国中学校吹奏楽部 ミニコンサート

(6) 総括

5 平成26年度すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム推進団体

墨田区、墨田区社会福祉協議会、墨田区民生委員・児童委員協議会、墨田区地域福祉計画推進協議会、墨田区ボランティアサークル連絡会・東京都城東地区地域福祉施設協議会

6 参加団体数

25団体（区・社協含む）

7 来場者数

約350名（関係者含む）

■ 司会者紹介

今年度は、実行委員であるとともに、企画委員として企画の段階から携わっていただいた山田委員・五十嵐委員が司会者でした。



五十嵐委員（左）・山田委員（右）

■ 主催者挨拶

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催にあたり、主催者を代表して山崎昇墨田区長から開会の挨拶がありました。



山崎区長の開会挨拶

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの企画・運営のために設置された実行委員会を代表して、野原健治実行委員会委員長から開催の挨拶がありました。



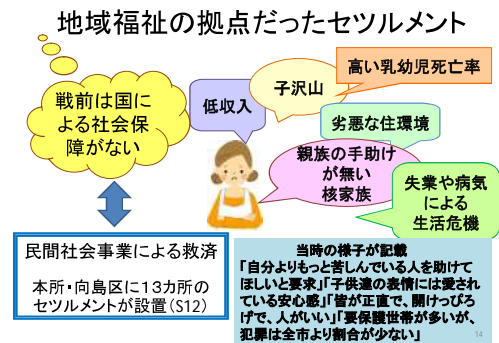
野原委員長の開催挨拶

■プレトーク 「すみだの地域社会を作った先人から何を学ぶか」

講師： 鈴木 みな子 氏 日本社会事業大学 社会事業研究所 共同研究員

墨田区は日本の近代以降の経済発展を支えた、たくましさを持つ地域です。

鈴木先生のお話から、困難にくじけない強い意志をもった先人たちの素晴らしいパワーを学びました。



- 1 墨田は日本の今の豊かさをつくった、経済発展を支えた地域である。

明治20年代からの産業革命、昭和30年代後半からの高度成長期を底辺から支えた人々がいた。

- 2 戦前の墨田には多くの社会福祉事業の草分けが誕生し、人々はそれらの社会サービスを生活に取り込み暮らしを向上させていった。社会福祉を育てた地域である。
- 3 社会福祉の受け手としてだけでなく、自分たちもそれを支えた人々であった。

住民の生活に密着したセツルメント

- 縦割りのサービス提供ではない、子供から大人まで、保育から生活用品販売、医療まで、家族の暮らしを包括的に支える事業
- 困って駆けこめば、明日から救済する即日性
- 幅広い住民層を受け入れる窓口
- 全人的なかかわりの視点



歩いて行ける距離にある地域福祉の原点

セツルメントを受け入れた地域住民側も素晴らしかった

- 多様な事業主体(宣教師、社会事業家、社会運動家...)であったが、役に立つと判断すれば受け入れる実利性、進取性
- 新しい価値観、新しい住民を排除しない度量
- ロコミで利用を広げて行き、ニーズとサービスをつなげる役割を取る、おせっかいの心
- 新しい生活スタイルへの創造力



心意気の高い先輩たちが墨田の地域を築いた



プレトークの様子

■ パネルディスカッション「地域の《わ》をひろげよう」

ボランティア活動、地域をつなぐ活動などを実践している方の活動事例・課題から、地域福祉・ボランティア活動の輪を広げるためのヒントをもらいました。

【コーディネーター】 関東学院大学教授 山口 稔氏

ひきふね図書館パートナーズ

～本が好きな様々な年代の方が集まり図書館で読書会やイベントを企画～

ひきふね図書館が開館したときに公募により集まった区民を中心とした組織である。

- ① 自分たちが0から考えた事業を実施している。
区民に有益なことならなんでもOK！
- ② 区民と行政と一緒に区民サービスを提供していく
ガバナンスの事例である
- ③ 課題解決型の図書館をめざしている。



本は人の人智が加わるといろいろな解決ができるツールとなる。

- ④ 図書館はただ本を借りるところではなくなってきている。セツルメントに通じるところもある。

図書館利用者を増やすためのツールとしてイベント等を行っている。
これからも人と人をつなげることに力を入れていきたい。



民生委員・児童委員 齋藤 正樹氏

～町会与協力し「太吉みまもりネットワーク」を結成。地域の見守り活動を行っている～

民生委員・児童委員として行政側から依頼されることをこなすのは、労力がかかるがそれほど大変なことではない。大変なのは、どこまでやればいいのかわからない見守り活動である。一人でご近所関係を構築するのは無理なので町会の役員全員と一緒にやっている。地域の見守りは民生委員や見守り相談室がやるのではなく、地域で取組むことだと思っている。地域と個人の関係が悪くなると事件が起こるが、寄り添う人がいれば発生しない。

「太吉みまもりネットワーク」でやっていること

- ①通常のみまもり ②年に3回ぐらいのイベント ③福祉の勉強会

「太吉みまもりネットワーク」活動の効果

知っていたつもりで、知らない人が多かった。つながりができていくことが最大の効果である。



中村仲製作所 中村 敬氏

～工場を地域に開くイベントを開催。地域・人のつながりを意識している町工場の3代目～

福祉施設で働いた後、やはり地元で働きたいと思い家業の工場を継いで現在に至っている。

前の仕事を通じて知り合ったDJとともに、身近なところで楽しみたいと思い、地域の人に工場を開いて、みんなでサッカー観戦をしたり、バンド演奏などをしたりしている。地元のおばあちゃんが「三味線をひかせてほしい」と来たこともある。サッカークラブの代表もしているが、ただサッカーをするだけでなく、どう地域の人とかわるかを大切にしたい。



足元を見つめなおし足元で展開するという活動をして行くと、自然と福祉的なものとなり、町づくりのしくみを作ることになっていくと考えている。

続けていくには、楽しむことが大切である。

元小梅小・墨田中PTA会長 菊地 修氏

～PTAや経営者としての立場から地域の子どもや若者を支え続けている～

向島で生まれ、地元で就職し、PTAに携わり学校や地域の大切さを感じるようになった。学校と関わるようになり先生と生徒のふれあう時間が少ないように感じた。提出物などが多く、大変なのは理解しているが、少し残念に思っている。

自分にはそんなに大きなことをできるわけではないが、地域の若者を雇用することで墨田区のためになればと思うようになった。墨田の若者たちが海外に目を向けることで向上心を持ち、墨田のものづくりの力を新しい形で大きなものとして行くことを考えている。

若い人の力は無限で、カンボジアの自社工場で300人の従業員を束ねているのは34歳の男性、中国の自社工場で400人の従業員を束ねているのは31歳の女性である。

若者にいろいろなことを経験させることで、ものづくりのまち墨田に貢献したいと思っている。



明治学院大学ボランティアセンター 市川 享子氏

～地域の活性化と学生の成長を願い活動されているコーディネーター～

明治学院大学のボランティアセンターでは、学生の学びのフィールドをキャンパスの外に広げ、地域と学生をつなぐことで、学生の成長を支援している。

学生の社会貢献を支え、それを通して学生が教室の中で受身で学ぶだけでなく、自ら社会に出て行き、課題に出会いながら学びを深めていく。そして教育というものを換え、地域も変わっていくことを目指している。

地域にどのような効果があるのか、課題は何なのか、プロジェクトごとに精査しながら改善をはかるようにしている。コーディネーターが入ることでバランスを保ち、地域貢献と学生の学びとどちらかにならないようにすることが大切である。

明治学院大学ボランティアセンターの 成り立ち

- 1995年の阪神淡路大震災時に多くの明学生が救援活動をおこなうために自発的に被災地へ向かったことがきっかけとなり、設立
- 明治学院大学の教育理念
"Do for others"(他者への貢献)を実践する場
- 学生と教職員がパートナーシップを築きながら活動するユニークな組織



明治学院大学 国際学部 国際学科 宮田祐磨氏より
～生まれ育った地域の原体験から学んだこと～
外国人の多い地域に生まれ育ち、外国人労働者の解雇を目の当たりにして日本人との距離感を感じていた。
大学に入り授業のプログラムの中で横浜市の国際交流協会での学習支援の経験をしたが、そのとき学んだことは、①行政と民間とが協力してまちづくりをすすめている②個人が持っているバックグラウンドの強みを生かしたボランティア活動が地域のためになっているということである。

鈴木みな子先生から

みなさんすごいことをしている人なので、特別な人が特別なことをやっているのかなと思っていましたが、実は自分の人生や生活の中から生まれたり出会ったりしたちょっとしたことをきっかけに広がった活動をされているんだなと思いました。硬く考えずに、まずやってみるというフットワークの軽さが重要ですね。



パネルディスカッションの様子

■分科会

■ 第1分科会

子どもたちが豊かに育つまち ～ 新しくなる子育て支援制度の中で ～

参加者 32名

1 概要

子ども・子育て支援新制度が来年4月から導入され、児童福祉の政策が大きく変わります。現在、公募委員を含む墨田区子ども・子育て会議が中心となり、新制度の詳細を検討しているところです。

今後は、福祉サービスの提供を受ける側も制度を理解し、自らの求めているサービスを選択していくことが必要であることから、第1部は制度説明を行ないました。

また、墨田区においては、新制度移行による小学校高学年からの子どもの居場所づくりについて検討をしているので、第2部においては、そのことを中心に意見交換が行われました。



2 内容

司会・・・野原委員長

(第1部)

「子ども・子育て支援新制度」の説明

墨田区 福祉保健部子ども・子育て支援担当 子育て支援課 小倉課長

「小学校高学年からの子どもの居場所づくり・現状と必要性」の説明

墨田区子ども・子育て会議・墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会委員

社会福祉法人 雲柱社理事長 服部 榮氏

(第2部)

参加者を4つのグループにわけ、それぞれのグループで意見交換

各グループのファシリテーターから、概要報告



第1部 制度説明



第2部 意見交換

■ 第2分科会

誰もが安心して暮らせるまち ～高齢者を支える取り組みをきっかけに～

参加者 63名

1 概要

核家族化や人間関係の希薄化は住民の孤立や孤独、自らの居場所を見出すことができない等の問題を生んでいます。

「高齢者」をキーワードとして、墨田が抱える課題やそれに対する取り組みや、行政・福祉施設・住民それぞれが出来ること、地域での見守りの方法を考えました。



2 内容

はじめに行政から高齢者の現状やひとりぐらし高齢者対策、これからの介護保険制度の方向性について説明がありました。墨田区ではみまもり相談室を8箇所設け、高齢者宅を訪問したり、見守る側のマンパワーを発掘するというところに力を入れていますが、行政だけで見守るのは難しいため、地域での『ゆるやかなみまもり』が必要であることが強調されました。

その方法として、「小地域福祉活動」や「ふれあいサロン」の活動が紹介され、地域のつながりを構築し、それを継続していくことの重要性が語られました。

また、地域との関わりを拒否している方が1割程度いるという現実もあり、見守られる側の対策も必要であるという問題点が出ました。

その他、介護予防や市民後見人養成の取り組みについて説明があり、市民後見人として活動している方から実際の支援について報告がありました。

最後に参加者にアンケートをとり、「福祉制度の充実よりも低額のサービスを求める」「地域での声掛けはできる」などの回答をいただき、これから自分のできるみまもりをしていきたいと思いますという意見で閉会となりました。



たくさんの方々の説明や活動を聞きました

■ 第3分科会

聞いて 話して つながる ～ワールドカフェ型広場～

参加者 68人

1 概要

小さいテーブルを囲んでお茶を飲みながら少人数で語り合うワールドカフェ方式で「今、私たちの地域で大切にしたい活動、新たに必要な活動」について、自由に語り合いました。



■ 少人数のグループで、話しがはずみました

2 内容

テーブルごとに一人1分の自己紹介（今、やっているボランティア活動等）をし、付箋を使用して出し合ったキーワードをきっかけに意見交換をしました。

各テーブルにいるファシリテーターを残して席を移動。前の意見を参考にしながら新メンバーで、再度意見を出し合い意見交換をしました。

最後にランダムに選ばれたテーブルのファシリテーター等から話し合われた内容について発表がありました。

- 家庭の力が弱まっている。また、以前に比べて高層マンションが多くなり、地域の人とのつながりが薄くなっているため高齢者の見守りは大変。外国人居住者も増えている。
- 高齢者世帯が増えている。とくに、新しく入ってきた高齢者は地域の見守りから外れてしまっている。
- 30代～50代ぐらいの人が引っ越してきても町会に入りたいと言ってくる人はまずいない。若い世代の地域へのかかわりが希薄になっている。したがって、若い人は地域の事がよくわからない。
- 地域の情報を知るきっかけがない。4月から墨田区に住んでおり、地域のお祭り等に参加したいと思っていたが、お祭りがいつ、どこであるのかわからなかった。お祭りがたくさんあるという事を今日ここではじめて教えてもらった。
- ボランティアの継続が重要であり、若い世代にどう引き継いでいくかを考えるべきである。
 - 今、ここにいる若い人達も、いつかは高齢者になるという事をふまえて考えて欲しい。
 - 防災訓練に参加すれば、いろいろな年齢の人とかかわれるのではないか。
 - 毎日食べている食事、人と一緒に食べるとおいしく楽しい。地域のグループで一緒に食べる機会を設けるなど、食をとおして地域のつながりが深められたらと思う。



キーワードを出し合い、意見交換をしました

■ボランティア活動紹介

会場では、区内で活動するボランティアグループ、墨田区社会福祉協議会、墨田区民生委員・児童委員協議会などが出展し活動の紹介をしました。また、被災地支援物販コーナー、障害者支援物販コーナーも出展しました。休憩時間などを利用し、各団体の活動の様子などのパネルを興味深く見られる方がたくさんいらっしゃいました。



1階 アトリウム



2階 ホワイエ

■両国中学校吹奏楽部 ミニコンサート

両国中学校の吹奏楽部の皆さんによる、演奏が披露されました。

参加者の皆さんからも「ブラスバンドは感激だった。」「すばらしかった。ありがとう。」と言った声がたくさん聞かれました。

指導者 墨田区立両国中学校 吹奏楽部顧問 太田千裕教諭

曲目・「斎太郎節」の主題による幻想 作曲 合田 佳代子

(2014年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲)

・ハンガリー狂詩曲 第2番

作曲 F. リスト

編曲 いたに 井潤 昌樹

・エル・クンバンチェロ



会場からは「ブラボー！」の声も

■ 総括

パネルディスカッションのコーディネーターである関東学院大学教授山口稔先生にフォーラムの全体総括をしていただきました。

「パネルディスカッションの感想」と「各分科会の内容」を紹介していただき、次のような講評をいただきました。

今回のフォーラムは、「つながり」「地域の輪」がキーワードであった。人と人がつながるということは、「多様な主体を連携させていく」「信頼を再構築させていく」ということである。

「街の魅力を創造していく」「地域の活力を維持していく、形成していく、再生していく」ということが人と人がつながるということに深く関係していると思っている。

このフォーラムは、正に、多様な人々が集まって、交流する場であったと思う。墨田に暮らす人々が気軽に意見交換、情報交換をすることで、皆さんのニーズが持ち込まれる。そこで、いろいろな気づき、課題が生まれてくる。その気づき、課題が皆に共有化される。その中で活動のアイデア、事業のアイデアが生まれてくる。そして、それにつながるネットワークが生まれてくる……。フォーラムを開催する意味が理解されたのではないかと思う。

これによって、住民の相互作用が生まれ、関係が強くなり、当事者意識が育まれた。

これからの課題もいくつかあると思う。ただ、楽しいイベントというだけではなく、多様な人が参加して、多様な意見がでる。まとまらなくてもいい。合意しなかった人もいるかもしれない。そのような人も排除しないということが大事である。多様な参加者の思いと経験を踏まえた議論ができればいいと思う。それを通して実際の活動が展開され、人と人がつながっていく。

今回参加された方は限られた方だと思うが、もっともっと多様性を持った人の参加が必要だと思う。この成果をどう住民の方に返していくかということが重要になる。例えばwebサイトに載せるとか、機関紙に載せるとかやり方はいろいろあると思う。

今後の発展に期待したい。



山口先生の講評

■ 主催者挨拶



墨田区社会福祉協議会深野紀幸事務局長から、「今日のフォーラムで、潜在的に何かをやりたいと思っている人がたくさんいることがわかった。それを行動に結びつけるというところが、今回のテーマ『笑顔につながるはじめの一歩』だったと思う。何かを始めたいと思っている方はぜひ一度すみだボランティアセンターに足をはこんでほしい」という話があり、閉会となりました。